

○宇野 裕委員 何点かお伺いをしたいと思います。

先ほどの部長の御挨拶の中に、地域防災力の強化が県土整備部として目指すべき方向の一つとして、理念というか方針を伺いまして、非常に心強く思っているところでございます。他県もそうでございますけれども、本県の社会基盤の整備というのは、特に高度成長期に集中してピークを迎えて、今後それらの集中して投資したもののとか整備したものの、この老朽化による修繕、更新に要するコストの増大、また同時にやったということで、そういうのが一斉に来てしまうのではないかというふうに私は非常に危惧をしております。そうなりますと、ある時期莫大な投資を同時にやらなければならないということも懸念されるわけでございますが、できれば私は個人的に思うんですが、庁内でも議論されていると思いますけれども、これまでは事後的な修繕というものが行われてきたというふうに思いますけれども、これからは中長期的な計画をきちんとつくって、予防型保全というようにところに転換をすべきではないかなというふうに思っております。

そこでお伺いしたいのですが、社会基盤整備の長寿命化計画の現在の策定状況はどういうふうになっているのか。また、来年度の平成26年度の予算にどのように反映されているのか、まずお伺いをしたいと思います。

○委員長（林 幹人君） 二橋課長。

○説明者（二橋県土整備政策課長） 県土整備政策課のほうからお答え申し上げます。

長寿命化計画についてでございますけれども、現在、橋梁、河川施設、県立公園施設、流域下水道施設について策定してございます。港湾などその他の施設につきましても、長寿命化計画の策定に向けて検討を行っておるところでございます。策定済みの4施設におきます平成26年度の長寿命化対策に係る予算でございますけれども、まず、橋梁につきましては約24億円、河川施設につきましては約6億5,000万円、県立公園施設につきましては約6億4,000万円、流域下水道施設につきましては約13億8,000万円となっております。

以上でございます。

○委員長（林 幹人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。よくわかりました。基本的には、今後長期間にわたってこの計画を継続していくことがまず重要ではないかなというふうに思います。

そこでまた1点お伺いしたいと思うんですが、それぞれの長寿命化計画の計画期間にどのぐらいの、ざっくりでいいんですが費用がかかるのか教えていただきたいと思います。

○委員長（林 幹人君） 二橋課長。

○説明者（二橋県土整備政策課長） それぞれの計画におきまして、計画期間というものについては幅がございます。それぞれ計画期間におきまして想定される概算の費用でございますけれども、橋梁につきましては50年間で約1,172億円、河川施設につきましては40年間で約300億円、県立公園施設につきましては10年間で約51億円、流域下水道施設につきましては3年間で約38億円というふうに見込んでございます。

以上でございます。

○委員長（林 幹人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。莫大な予算が必要になるということが想定されるということでもあります。ぜひ頑張ってくださいと思います。

社会資本施設といっても、特に社会資本施設というのはいろいろあると思うんですけれども、ちょっとポイントを絞りまして、橋梁についてお伺いしたいと思います。

千葉県橋梁長寿命化修繕計画を県の方では策定し、順次修繕を実施されているというふうに聞いております。こういう計画は非常に重要だと思いますし、県民の安全・安心、昨日も東日本大震災の慰霊祭、3周年の行事が飯岡であったわけでございますけれども、県民の関心は非常にそういうところに集中しているというふうに私は思っております。日ごろの点検とあわせて、橋梁についてはこの計画を着実に実施をしていくことが非常に重要ではないかなというふうに思います。計画的な修繕のための予算の確保が大きな課題にはなっているんじゃないかなというふうに思っております。

そこでお伺いしたいと思います。橋梁の長寿命化修繕計画は計画どおり進んでいるのか。また、今後も必要となる修繕のための財源についてどのように確保されようとしているのかお伺いをしたいと思います。

○委員長（林 幹人君） 露嵯課長。

○説明者（露嵯道路環境課長） 道路環境課のほうから御説明させていただきます。

県では、平成 22 年度に損傷が顕在してから修繕を行う事後的修繕から予防的修繕に転換を図るため、千葉県橋梁長寿命化修繕計画を策定しまして、予算の平準化を進めているところでございます。これまで特に損傷の著しい橋梁を優先的に修繕を実施しておりまして、平成 25 年度に全て着手したところでありまして、平成 26 年度内にこれらの橋梁の修繕の完了を目途におおむね計画どおり進めているところでございます。

残る橋梁につきましても、計画に基づきまして修繕対策を実施してまいります。また、今後の財源につきましては、引き続き国の交付金を積極的に活用しまして、今後とも予算の平準化が図れるよう財源確保に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（林 幹人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。それでは、ちょっと視点を変えまして、道路の施設についてでありますけれども、維持管理に当たっては点検を実施して現状をしっかりと把握することが必要ではないかなというふうに思います。聞くところによりますと、県では今年度道路ストック総点検というのを実施しているようでございますけれども、この結果を生かして、今後の対応について検討すべきだというふうに思っております。

そこでちょっとお伺いしたいと思いますが、今年度、県では道路ストック総点検によって道路施設の一齐点検を実施しているということでありまして、この点検結果をどのようにこれから生かしていかれようとするのか、お伺いをしたいと思います。

○委員長（林 幹人君） 露嵯課長。

○説明者（露嵯道路環境課長） 先ほど申し上げましたように、県では平成 25 年度に国の防災安全交付金を活用しまして道路ストック総点検を実施したところでございます。この点検結果につきましては、PDCA サイクルによります修繕計画、修繕、点検、計画の見直しを継続して実施することで予防保全型の維持管理に役立てていくこととしております。

現在、点検の結果を取りまとめているところでございまして、この結果を踏まえて長寿命化修繕計画の見直しを平成 26 年度に実施することとしております。

以上でございます。

○委員長（林 幹人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。

それでは最後でありますけれども、先ほども冒頭に申し上げたんですけれども、これから昭和 40 年、50 年代に集中的に投資して整備したものが、人間で言うと高齢化、施設も高齢化と言うんでしょうか、老朽化が進んでいくということでございます。先ほど橋梁についてお伺いしたんですけれども、他の道路施設についても当然これは長寿命化という視点でそういうことをやっていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

そこで、最後にお伺いをしたいと思います。その他の道路施設の長寿命化計画を県としてどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

○委員長（林 幹人君） 露崎課長。

○説明者（露崎道路環境課長） 千葉県におきましては、高度経済成長期に大量に建設されました社会資本が、委員御指摘のように今後一斉に高齢化を迎えるということになります。橋梁以外の道路施設におきましても、老朽化対策は急務となっているところでございます。このため、平成 26 年度には先ほどの道路ストック総点検等の結果を踏まえて、トンネルや横断歩道橋につきましても長寿命化修繕計画の策定に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（林 幹人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 要望ですけれども、御答弁ありがとうございます。財源についてでありますけれども、交付金制度の活用というふうにありましたけれども、国のほうからそう

いうお金が将来 100%来るといふ保証もないわけでありまして、その時点においては、私は個人的には県債を発行してでもそういうのをきちんとやったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。人命にかかわることに関係する施設でもあるし、笹子トンネルのああいう事故もありますし、仮にそういう事態になってもきちんと計画を遂行していただきたい、これは要望でございます。

ありがとうございました。